

皆さま、こんにちは。NPO 法人ウッドデッキの渡辺美代子です。今年も暑い夏がやってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

ウッドデッキは、今回から定期的に会員の声を皆さんにお届けすることになりました。個性あふれる会員の声を、これまでシンポジウムなどなんらかの関わりを持ってくださった皆さんにお届けし、少しでも楽しんでいただければ嬉しく思います。そして、賛同も反対も、ご感想やご意見をいただければ大変ありがたく思います。

今、世界はあちこちで起こる紛争や地球温暖化による被害、ポピュリズムの台頭、少子高齢化などこれまであまり深刻に考えなかつたことが私たちの身近な問題となっています。どの問題も突然起きたわけではなく、長い歴史の流れの中で今表面化した問題と捉えることができます。地球温暖化の問題にしても、50年ほど前から問題視されてきましたが、身近な問題になるまではなかなか対策や解決が進まなかつたように思います。そういうしているうちに、人は将来もずっとこの地球上で暮らしていくのだろうか、と心配になる猛暑や異常気象、砂漠化が進んでいます。どんな災害に対しても「10年に一度」という台詞を聞かなくなっていました。

人は、遠い将来の深刻で大きな問題より、身近な小さな問題に关心を寄せると言われています。自分の収入についても、生涯年収より今得られる年収を重視する人が多いそうです。将来については未確定である一方、今と近未来の状況はほぼ確定している、あるいは自分の思いや考えを反映できるので、身近な問題を重視するという考え方は十分理解できます。というより、私も将来の年金には期待せず、今得られるものを得ておこうと考える一人です。

しかし、その結果、長期的な問題がいつも棚上げされ、気づいた時にはもう手遅れとなることがあります。どうしたら、人は遠い将来のことを考えることができるようになるのでしょうか。変革を起こす第一歩が危機意識の共有というのは、イノベーション理論において共通して言われています。今ままがよい、今までよいと考えると、将来について真剣に考える必要がありません。今ままがいかに問題なのか考え、皆で共有するのが第一歩なのでしょう。ただし、それだけでは夢も希望もありません。今の危機を脱し、もっとよい世界があることを、もっとよい世界をつくれることと一緒に考えていくことも大事であるように思います。将来が成り行き任せではなく、自分たちの意思で、自分たちの夢を実現するものでありたいと考えるのは現実的ではないでしょうか。

今年 10 月 31 日には札幌の北海道大学で、“One health”をテーマにシンポジウムにて皆さんと議論します。“One health”とは、「人の健康、動物の健康、環境の健全性は互いに深く関係している」という考えに基づき 3 つの分野が連携し、協力して健康課題に取り組む国際的アプローチです。遠い将来を皆さんと一緒に考える機会になることを願っています。オンライン参加も大歓迎です。詳細が決まりましたらご連絡しますので、皆さまのご参加を期待しています。

また、シンポジウムの翌日 11 月 1 日には立命館慶祥中学・高校でウッドデッキ会員と

中高生との対話会を行います。将来は中高生にとって自分の問題ですから、中高生がどのように考え、捉えているのか、とても興味があります。そして、私たちの経験や考えと中高生の考えが少しでも融合できれば、とても意味あるものになると期待しています。こちらについても、開催後にご報告します。

最後に、今年5月に開催したウッドデッキ総会の写真をお送りします。写真だけでは伝わりにくいかもしれません、とても楽しい会となりました。

